

世界中の親愛なる私の子どもたちへ。

子どもを児童労働から解放する度に、私自身も解放される思いでした。自由になった子どもが初めて見せる美しい笑顔は、私にとって神々の笑顔そのものです。私は、恐れを抱き疲れきった子どもたちの目を見てきました。そして切迫した問いを耳にしてきました。

20 年前、ヒマラヤのふもとの丘で小さな痩せた少年に会いました。彼は私に尋ねました。「ボクにおもちゃや本ではなく、作業道具や銃を押しつけなければならないほど、世界は貧しいのでしょうか？」

過激派の民兵に拉致されたスーダンの子ども兵に会ったことがあります。彼は最初の訓練で、自分の友達や家族を殺すよう命じられました。彼は私に問いかけました。「私の何がいけなかったのでしょうか？」

12 年前、コロンビアの路上で人身売買され、レイプされ、奴隷にされた幼い母親が、私にこう問いかけました。「私は夢を持ったことがありません。私の子どもは持てるのでしょうか？」

子どもたちの夢を否定することほど、大きな暴力はありません。

私の人生にとって、ただひとつの目標は、すべての子どもに「自由が与えられる」ことです。子どもらしく成長する自由、食べることができる自由、眠ることができる自由、太陽の光を浴び、笑ったり泣いたりし、遊んだり、学んだり、学校に行く自由、そして、夢を見ることのできる自由です。

子どもに夢を与えない寺院やモスク、教会を、私は受け入れることはできません。

世界のたった一週間分の軍事費があれば、すべての子どもたちを学校に通わせることができるのに、そんなお金はないという世界を、私は受け入れることはできません。

私には、共に行動するたくさんの勇気ある仲間たちがいます。この数十年間で、学校に通えない子どもたちは半減しました。乳幼児死亡率や子どもの栄養失調も減少し、何百万人も子どもたちが命を落とさずにすみました。世界の児童労働者数も3分の2まで減りました。しかし、間違いなくまだ大きな課題が残っています。

しかし、マララさんのような若者が各地で立ち上がり、暴力よりも平和を、過激思想よりも寛容を、恐怖よりも勇気を選択しているのも事実です。答えは、日々の問題に立ち向かう個々人の中にあるのです。

18年前、103ヶ国の何百万人も仲間たちが8万kmを行進しました。そして、児童労働に反対する新しい国際法が生まれました。

私たちはグローバル社会を生きていますが、一方で深刻な断絶が一つあります。それは「思いやりの欠如」です。一人ひとりの思いやりの心を育み、それを全世界的な運動に変えていきましょう。思いやりを世界に広げましょう。

サッカーボールを縫いながらサッカーをしたことがないのは誰の子どもでしょう？石や鉱物を採掘しているのは誰の子どもでしょう？カカオを収穫しながらチョコレートの味を知らないのは誰の子どもでしょう？みんな、私たちの子どもなのです。

インドの貧しい家庭に生まれた8歳の少女デブリは救出された時「なぜもっと早く来てくれなかったの？」と私に言いました。彼女の問いは、今でも私の心を揺さぶります。なぜもっと早く助けることができなかったのか？デブリのような子どもをあと何人救出せずに放っておくのか？急いで、ともに行動を起こすことが必要です。

私はすべての人に呼びかけます。子どもへのあらゆる暴力、子どもの奴隷、人身売買、児童婚、児童労働、性的虐待、非識字をこの文明社会からなくしていくことを。みなさん、それは可能なのです。

50年以上前、私が初めて小学校に登校した日、学校の門の前で座って靴磨きをしている少年に出会いました。私は先生に「なぜぼくと一緒に学校に来ないの？」と聞きましたが、答えてくれませんでした。ある日勇気を出して、少年の父親に聞いてみると「私たちは働くために生まれてきたのだから」と答えました。その時感じた怒りは、今でも私を突き動かします。

子どもの頃、あの靴修理の少年と一緒に教室で勉強している夢を見ました。その時の未来が、今日なのです。目を閉じて、心に手を当ててみてください。あなたの中に存在する子どもを感じられませんか？その子の声に耳を傾けてみてください。

今日、ガンジーやキング牧師、マンデラ氏のような何千もの人々が一緒に歩く姿が目に見えます。あなたもぜひ加わってください。この部屋のみなさん、全世界のみなさん。搾取から教育へ、貧困から共栄へ、奴隷状態から自由へ、暴力から平和への行進を、ぜひ一緒に歩み始めましょう。

## 2014年 ノーベル平和賞受賞者 カイラシュ・サティヤルティ氏

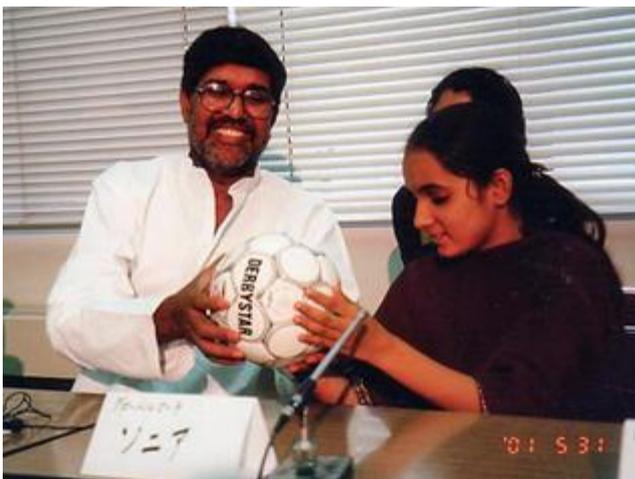
「児童労働に反対するグローバルマーチ」代表、「教育のためにグローバルキャンペーン（GCE）」代表理事。ユネスコ EFA ハイレベルグループメンバー。

1954年1月11日、インド・マディヤプラデシュ州ビディシャ生まれ。幼少期に学校の正門前で靴磨きをする親子と出会い、学校に通う自分との違いに疑問を抱いきはじめる。1980年、26歳で電気技師をやめ、子どもの強制労働や人身売買を撲滅するための団体「BBA/SACCS・南アジア奴隷解放連盟」を設立。児童労働や搾取に苦しむインドの子どもたちの救出に取り組んできた。保護した子どもの社会復帰に向けた教育プログラムや施設も整備した。BBAがこれまでに救出した子どもは8万人以上。



児童労働根絶に向けた世界的なネットワーク作りにも尽力し、織物業界で、カーペットなどの製品が児童労働によって作られていないことを認定する国際非営利団体「グッド・ウィーブ」を設立。1998年には、世界110カ国の2,000以上のNGOや組合が参加して、世界中を練り歩く「児童労働に反対するグローバルマーチ」を発起。その後、「児童労働に反対するグローバルマーチ」は世界中の児童労働に関わる団体、組織をつないで様々な活動を行う国際的ネットワーク組織「Global March Against Child Labour」となり、代表を務める。

「ロバート・ケネディ人権賞（アメリカ1995年）」、「金旗賞（オランダ1998年）」、「F・エバート財団国際人権賞（ドイツ1999年）」、「ラウル・ワレンベルク人権賞（アメリカ2002年）」など多数受賞。2007年のアメリカ国務省の報告書では「現代の奴隷制を終わらせるために活動する英雄」と称賛された。2006年にもノーベル平和賞に推薦され、最終選考に残った。



カイラシュさんは、インドで児童労働をしていた子どもたちを連れ、度々日本に来たことがあります。児童労働の実態を伝え、児童労働の撤廃を呼びかけるイベントに参加されました。

詳しくは、ACEウェブサイト「ノーベル平和賞受賞 カイラシュ・サティヤルティ氏について」を参照

<http://acejapan.org/info/2014/10/13218>